

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students

## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 遠藤 健作  
所属 (School) 工学研究科 電子・数物系専攻  
電子物理工学分野

学年 (Grade) M 2

留学先 (Name of overseas institution)  
グラスゴー大学 化学科  
Structure and Dynamics group

留学期間 (study abroad period)  
2017/10/21~2017/11/20

記入日 (Date) 2018/1/10



## 留学レポート Study Abroad Report

私は、10月の中旬頃から約1カ月間イギリス、スコットランドのグラスゴー大学へ短期留学する機会を頂きました。そのことについて報告します。

### ・留学先について

留学先であったグラスゴー大学は、スコットランドのグラスゴー市に本部を置かれている。1451年に設置された英語圏最古の大学の一つであり、ワット(W)の単位で知られるJames Wattや熱力学の開拓者として知られている物理学者のWilliam Tomson (Lord Kelvin)など歴史上重要な人物を多く輩出している。また、日本にとっては、「日本のウイスキーの父」と呼ばれている竹鶴政孝も同じくグラスゴー大学化学科に留学しており、竹鶴の留学がなければ日本のウイスキーの実現はなかったと言われている。



滞在先の研究室であったKadodwalaグループはキラリティ(右手と左手のように鏡像が重なり合わない関係)と呼ばれる分野で先駆的な結果が出されている。もとより、私が所属する研究室と共同研究の実績があり、今までに何度か研究に関する議論を行っていた。こういった経緯から私自身がKadodwala教授の研究室に留学したいという気持ちが強くなり、今回の留学が実現した。

### ・留学前の準備等

留学先の教授から、ビザが必要だと言われその申請に必要な書類を調べた。必要書類や証明書などを用意し大阪のビザセンターに出向き申請した。イギリス政府のHPより必要なビザが調べることが出来るがそれによると、私はビザ申請の必要はなかったが、近年イギリスは入国審査が厳しくなっており、滞在先の大学から指定されたビザの申請を行った。申請から取得まで約二週間程度かかった。ビザを取得した後、飛行機のチケットも自分で取った。飛行機のチケットは早ければ早いほど安いため、もう少し早く準備をしとけばいいと後悔した。向こうでの滞在先は、以前私の研究室に留学していたCameron Gilroyの家に泊まらせてもらうことになっていたため、ホテルなどの予約は必要なかった。また、コンセントの変換プラグは2個持っていった(滞在先用、研究室用)。また、家では、クロックスをスリッパ代わりに使用したが非常に楽でよかった。また、スコットランドは天気が悪い日が多くそしてほとんどの人が傘を差さないと聞いていたので、防水仕様のコートを買って行った。実際に、雨の日も多かったがそのコートが役に立った。

### ・研究生活について

普段は、朝の9時頃に研究室へ行き、夕方5時頃に帰るという生活をしてきた（留学先の研究スタイルに合わせた）。滞在先の研究室は、化学科に所属し、キラリティのあるタンパク質等の高感度検出やキラリティのもつ金属ナノ構造の物性について研究が盛んにされている。そこでは、ポストドクの人々が1人、Ph.D コースの学生が6人、マスターコースの学生が1人であった。日本人は私一人であったため、普段は英語を使ってコミュニケーションをしていた。それぞれ、実験をしている人もいれば、電磁場計算シミュレーションを行う人もいた。私は、電磁場計算ソフトである comsol を用いたシミュレーションを行っていた。私は日本では、円型金ナノ構造の光学活性について調べる研究を行っているが、それをシミュレーションによる再現に取り組んでいた。わからないところは、ポストドクの方や同じ研究室の方に聞くことによって解決していった。

### ・現地での生活について

滞在先では、Cameron と Cameron の彼女との3人での生活であった。留学前からこのことは聞いていたが、当初はどんな生活になるかは正直非常に不安であった(Cameron の彼女とは、日本で一度面識がある)。しかしながら、その二人が気を使ってくれたこともあり、何もストレスを感じることなく一か月生活できた。

食事に関しては、朝、昼はスーパーで買ったサンドウィッチやパン、野菜、果物などを食べていた。特に野菜や果物は日本に比べ非常に安い。スーパーにも非常に多くの種類のパンが置いてある。夜は、料理好きな Cameron がほとんど毎日さまざまな種類の料理を作ってくれた。食費はもちろん支払ったが、外食するよりはるかに安く済み非常に助かった。作ってもらうばかりでは申し訳なかったので、手伝える部分は手伝い、ほぼ毎日皿洗いを担当した。こういった日常から、日常での英会話も学べることが出来た。外食では、インド料理屋が非常に多く、そしてまたおいしいので特に気に入るよく食べていた。ブラックプディングやハギスと呼ばれるスコットランドの伝統料理を食べさせてもらったことがあるが、僕はおいしいと感じなかった。また、イギリスでは、居酒屋ではなく、パブと呼ばれるものがある。パブでは、食事はせず、あるのはアルコールのみであった。特筆すべきなのは、ビールやウイスキーの種類が豊富

であることで、日本と違った楽しみ方ができた。また、日本で一回居酒屋に行くよりも安かった。週末は、Cameron の彼女が車を所有しているので、車でしか行けないような場所に連れて行ってもらった。特にスコットランドは自然が豊かで、湖や丘などに連れて行ってもらったが、見た時には非常に感動した。



### ・留学によって得た経験

滞在先では、日本人の人と会う機会がほとんどなく（一度だけ別の研究室の日本人のポストドクの人と会う機会があった。）、常に英語を使っていた。コミュニケーション面で言えば、一対一ならば会話について理解して話すことが出来たが、複数人での会話だとその内容について理解することが難しいことが多かった。それでも機会を見つけて積極的に会話に参加することが重要だと感じた。特に、相手の言っていることを聞けたときは、それに対する返答もすらすら英語で答えられたので、これからもっと聞く能力を鍛えていかなければならないと痛感した。また、会話の中で、日本について（政治、歴史、娯楽、食べ物 etc）を聞かれることが多かったが、自分が知らないために答えられないことがあり、もっと日本について知らないといけなと強く思った。学部生の頃に、ある授業で国際力とは自分の国について知ることである、と聞いたことがあるがまさにその通りだと思った。自分の国について知らないということは恥ずべきことだと思った。

今回の留学に際して、大阪府立大学 国際交流課をはじめとして多くの方に支援して頂き、非常に貴重な経験が出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。